

# 北斗市・人口ビジョン [骨子案]

## 第1 人口の現状分析

### 1 人口動向分析

#### (1) 時系列による人口動向分析

- ① 年齢3区分別人口の推移と将来推計
- ② 自然増減（出生・死亡）の推移
- ③ 社会増減（転入・転出）の推移
- ④ 自然増減・社会増減の推移
- ⑤ 合計特殊出生率の推移

#### (2) 産業別就業者数の人口動向分析

- ① 産業別就業者数の推移
- ② 第1次産業・業種別就業者の推移
- ③ 第2次産業・業種別就業者の推移
- ④ 第3次産業・業種別就業者の推移

#### (3) 年齢階級別の人口動向分析

### 2 将来人口の推計と分析

## 第2 人口の将来展望

### 1 目指すべき将来の方向

- (1) 人口減少への対応方針
- (2) 取組の基本方針
- (3) 目指す姿とその実現に向けた取組

### 2 人口の将来展望

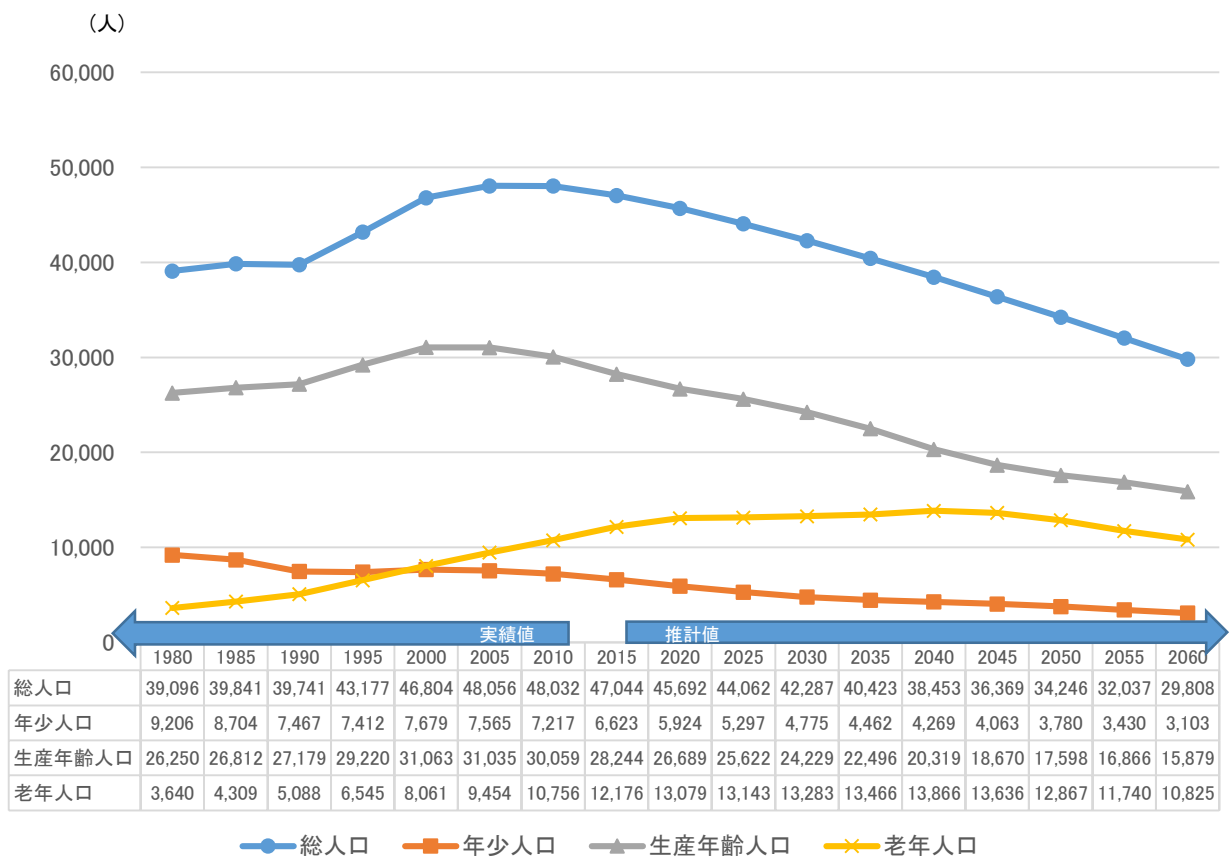
# 第1 人口の現状分析

## 1 人口動向分析

総人口や年齢構成がどのように変化してきたか、その要因はどのようなものか等を分析する。

### (1) 時系列による人口動向分析

#### ① 年齢3区分別人口の推移と将来推計



※ここでは実績値のみ分析を行い、推計値は参考です。

推計値は次項で今後整理します。

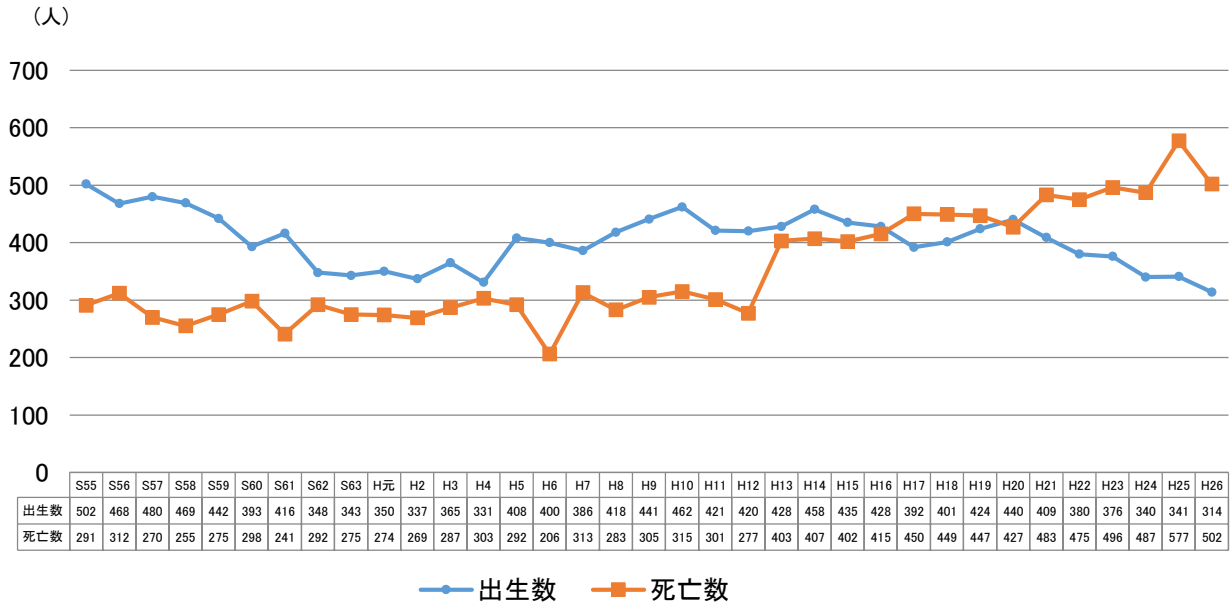
北斗市では、1990年代前半のいわゆるバブル経済期を除くと、人口増加が続いていたが、平成17(2005)年に最も多い48,056人に達して以降、現在まで人口減少が続いている。

生産年齢人口は、平成12(2000)年まで増加が続いていたが、それ以降減少に転じている。

年少人口については、少子化により減少の一途をたどっており、1990年代後半には、高齢者人口を下回った。

老年人口(65歳以上)は、平均余命が伸びていることから、一貫して増加を続けている。

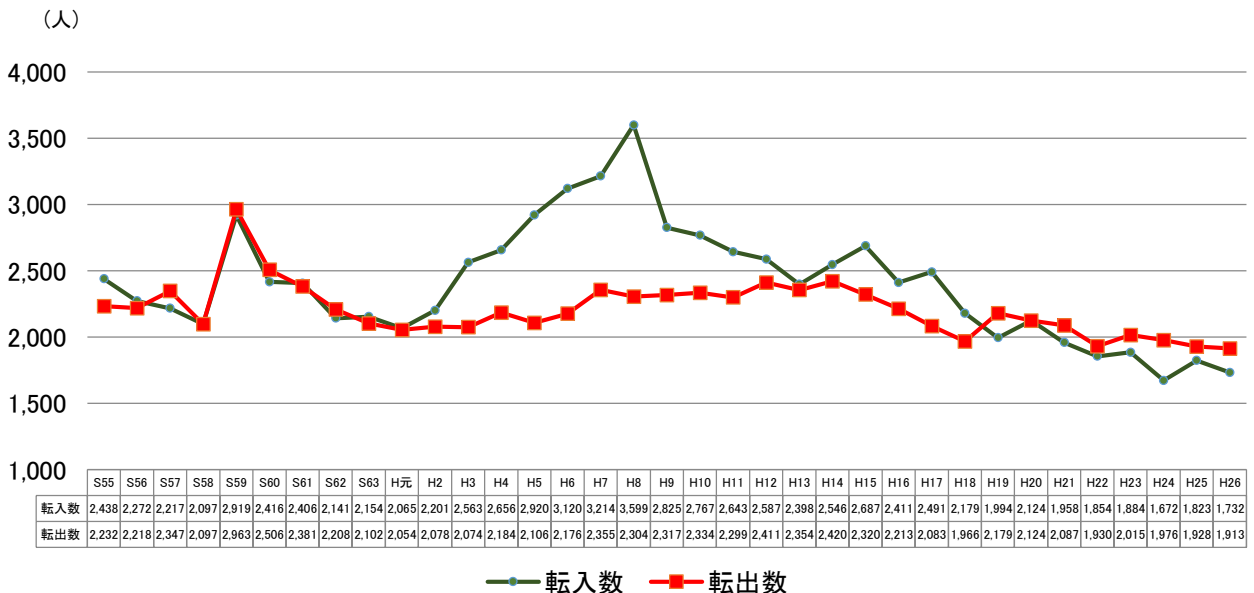
## ② 自然増減（出生・死亡）の推移



自然増減については、平成4年頃まで減少を続けていたのち、一時横ばいの時期があったものの、近年減少が続いている。

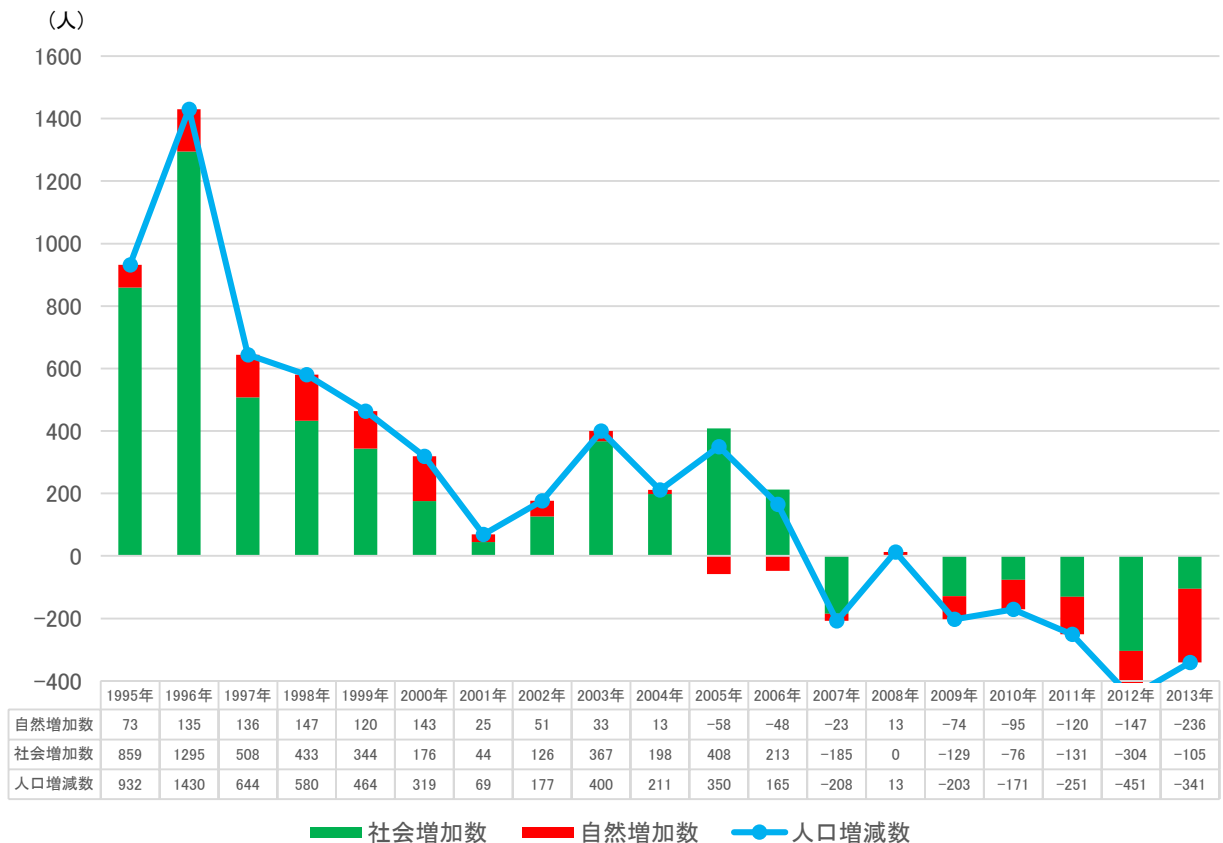
平成16年までは死亡数が出生数を下回っていたため、「自然増」の状態が続いていたが、平成17年以降(平成20年除く)は死亡数が出生数を上回り、「自然減」に転じている。

## ③ 社会増減（転入・転出）の推移



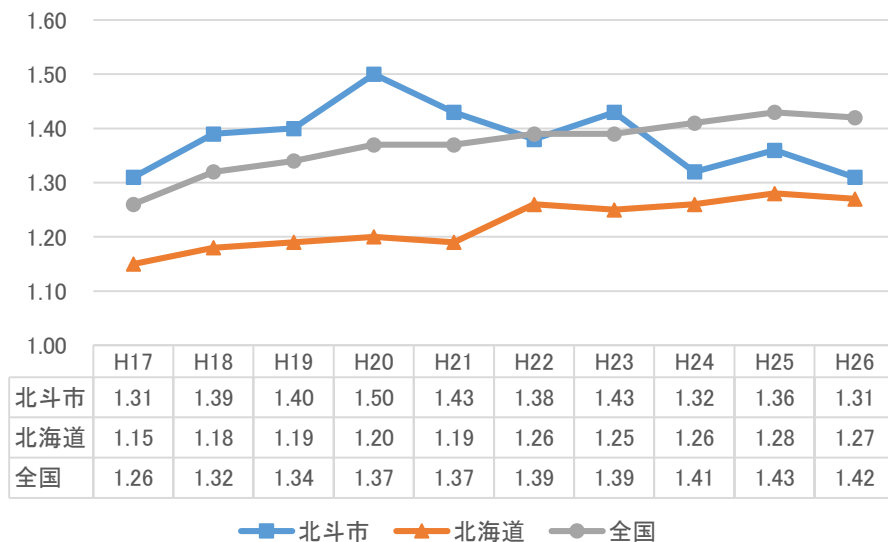
社会増減については、平成に入ってからしばらく転入者数が転出数を上回っていた（社会増）が、平成19年以降、北斗市外への転出超過（社会減）の状態となっている。

#### ④ 自然増減・社会増減の推移



2004年までは自然増・社会増と人口増が続いていたものの、2005年には自然減、2007年には社会減が始まったため、2007年から人口減の状態となり、減少が続いている。

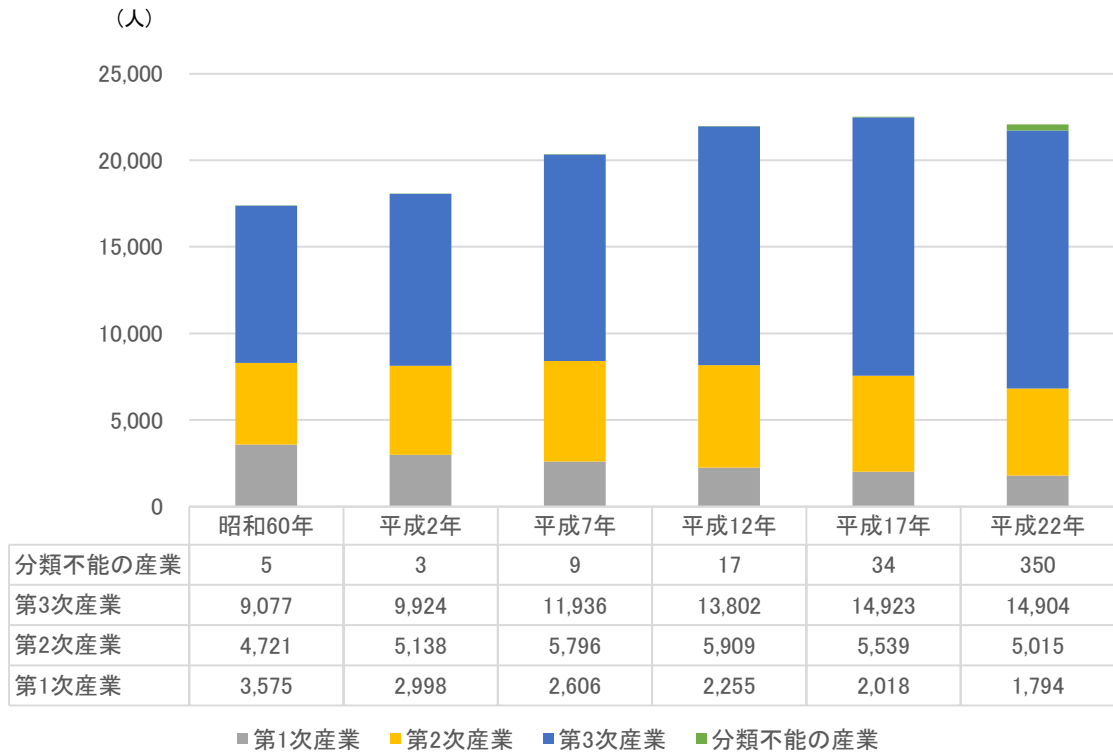
#### ⑤ 合計特殊出生率の推移



北斗市の合計特殊出生率は、北海道平均より高く推移している。また、従来全国平均よりも高く推移していたが、平成24年からは全国平均を下回っている。

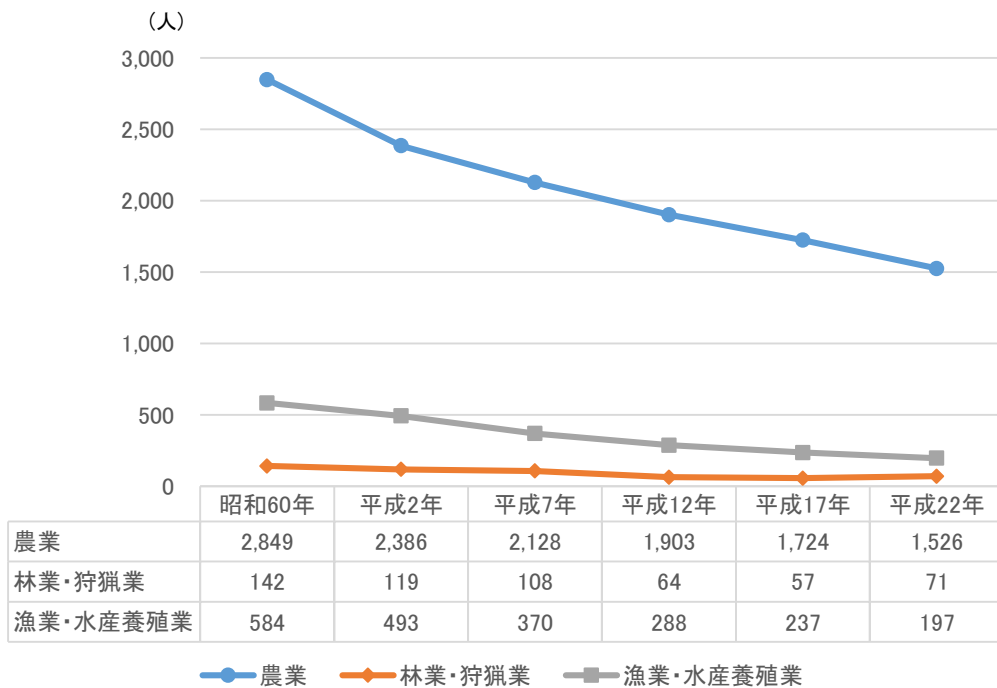
## (2) 産業別就業者数の人口動向分析

### ① 産業別就業者数の推移



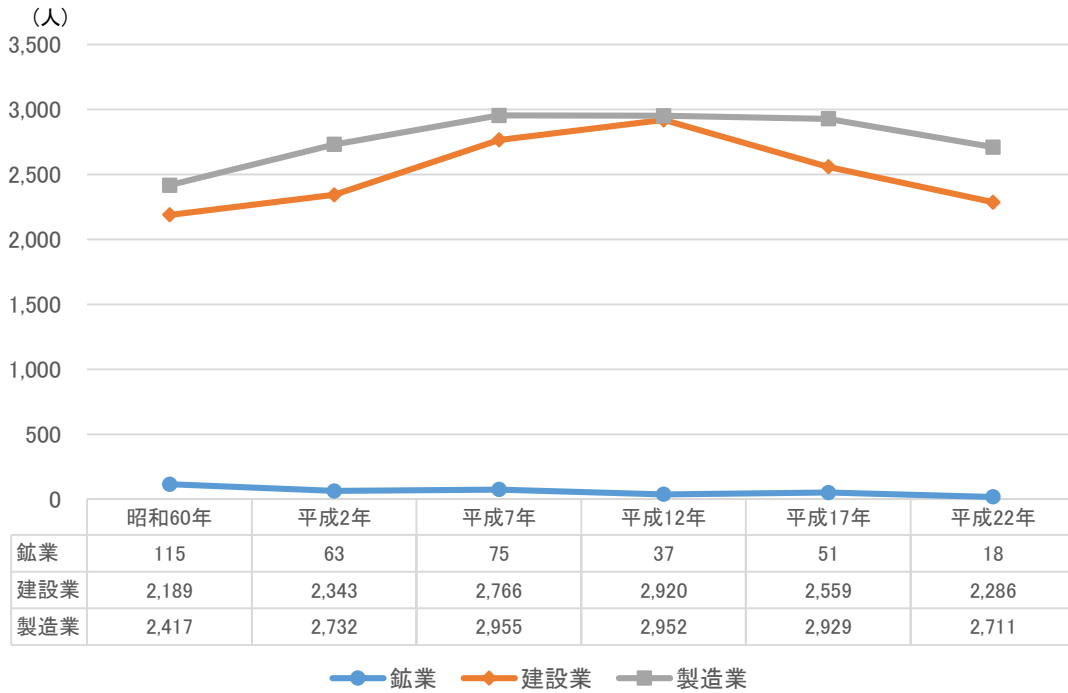
産業別就業者数は、第3次産業の割合が高くなっており、全産業とも減少してきている。その中でも、第2次産業の減少幅が一番大きくなっている。

### ② 第1次産業・業種別就業者の推移



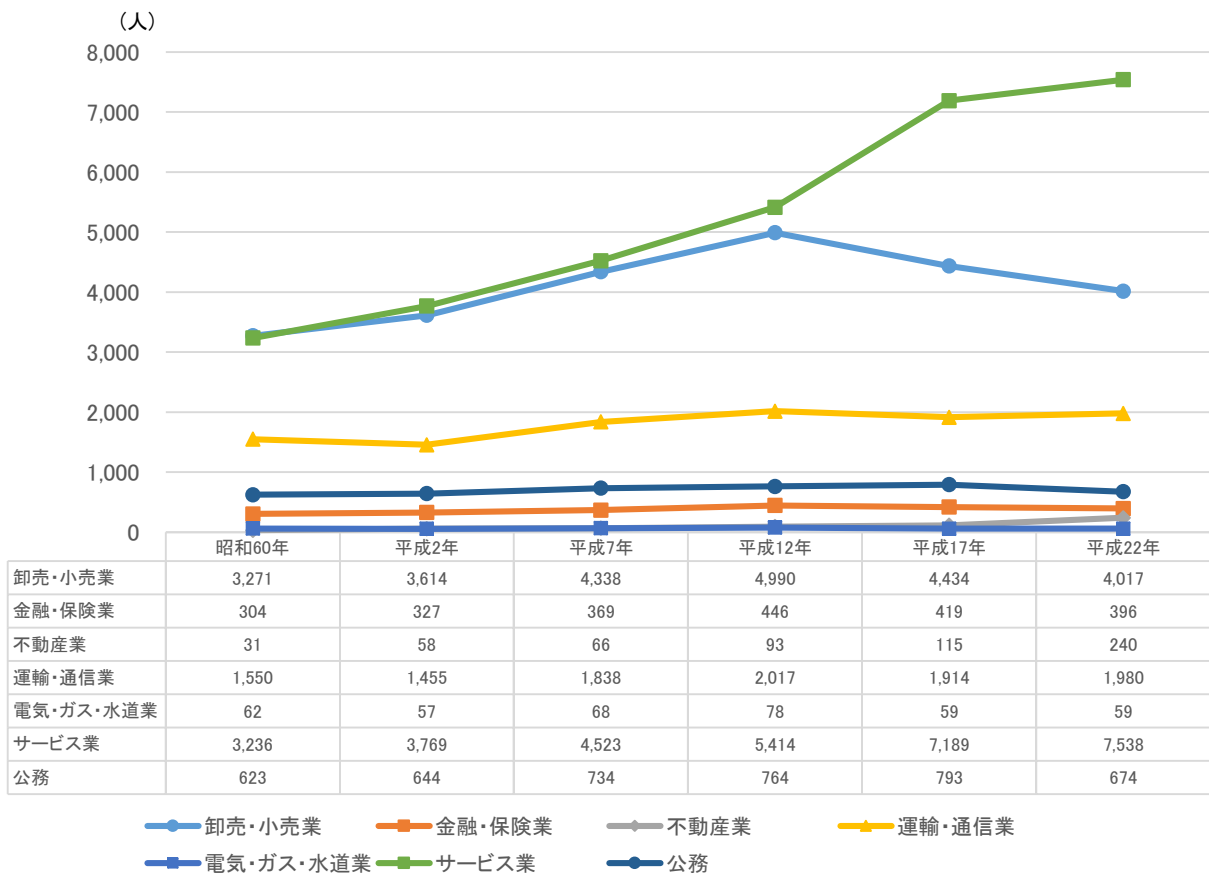
農業の就業者の減少が特に激しく、第1次産業全体の減少の要因となっている。

### ③ 第2次産業・業種別就業者の推移



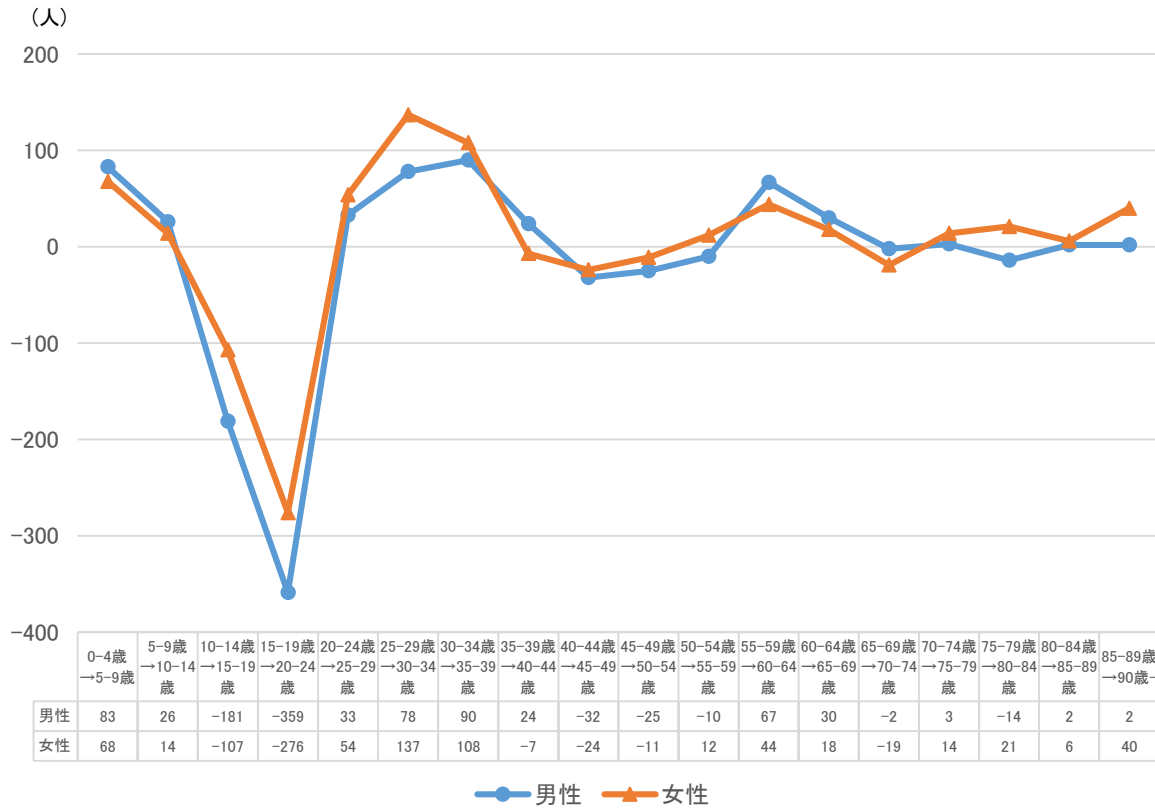
鉱業、製造業が増加してきていたものの、近年は減少傾向が見られる。

### ④ 第3次産業・業種別就業者の推移



サービス業が年々増加しており、第3次産業全体の増加要因となっている。卸売・小売業は近年減少傾向にあり、それ以外の業種についてはほぼ横ばいとなっている。

### (3) 年齢階級別の人口動向分析 (2005年→2010年)



男女ともに10歳～14歳→15歳～19歳、15～19歳→20～24歳に社会減となっている。それぞれ、進学及び就職により北斗市外へ移動することが大きな要因と考えられる。

人口動向分析は、今後、一部追加を予定

## 2 将来人口の推計と分析

様々な仮定の下で将来人口推計を行って比較することで、人口に関する今後の課題を分析する。

今後の分析状況等を踏まえ追加予定



## 第2 人口の将来展望

### 1 目指すべき将来の方向

#### (1) 人口減少への対応方針

今後の分析状況、総合戦略の検討状況を踏まえ追加予定

#### (2) 取組の基本方針

今後の分析状況、総合戦略の検討状況を踏まえ追加予定

※ 現時点における基本方針の考え方としては、以下のとおり

- ① 市民をはじめ、企業、道等が人口減少問題に関する基本認識を共有し、それぞれが役割を発揮しながら、その対策に一体的に取り組む。
- ② 北斗市の特性や実情に応じ、多様な社会のあり方を踏まえた取組を進める。
- ③ 人口減少問題への対応の視点から、これまでの取組を見つめ直し、長期的展望に立って、有効な対策を総合的に構築し実施する。

#### (3) 目指す姿とその実現に向けた取組

今後の分析状況、総合戦略の検討状況を踏まえ追加予定

## 2 人口の将来展望

今後の分析状況、総合戦略の検討状況を踏まえ追加予定

# 北斗市の人口動向のポイント

## 【P2】総人口の推移

国勢調査によると、人口は増加傾向が続き、平成 17 年にピークの 48,056 人となり、5 年後の平成 22 年に微減(△24 人)に転じた。

(参考)平成 22 年～平成 26 年の住基人口△1,309 人

## 【P3】自然増減(出生・死亡)の推移

平成 16 年までは自然増(死亡数が出生数を下回る)の状態であったが、平成 17 年以降は自然減(死亡数が出生数を上回る)に転じている。

(直近年：平成 26 年△188 人)

## 【P3】社会増減(転入・転出)の推移

平成 18 年までは社会増(転入数が転出数を上回る)の状態であったが、平成 19 年以降は社会減(転入数が転出数を下回る)に転じている。

(直近年：平成 26 年△181 人)

## 【P4】自然増減・社会増減の推移

平成 17 年に自然減、平成 19 年に社会減がそれぞれ始まり、それに伴い人口減となっている。

(直近年：平成 26 年△369 人)

## 【P4】合計特殊出生率の推移

従来、全国、北海道より高く推移していたが、平成 24 年からは全国平均を下回っている。

(直近年：平成 26 年 1.31)

## 【P5】産業別就業者数の推移

第 3 次産業の割合が年々高くなっているが、全産業とも就業者数の減少が見られる。

## 【P7】年齢階級別の人口動向(2005 年→2010 年)

5 年間での推移を見ると、男女ともに 10 代、20 代前半に大きな社会減が見られる。